

彦根総合高等学校での素描授業の報告

A Report on a Drawing Class at Hikone Sogo High School

藤井 俊治

FUJII, Toshiharu

彦根総合高等学校での素描授業の報告

A Report on a Drawing Class at Hikone Sogo High School

藤井 俊治
FUJII, Toshiharu

助教（共通教育センター・教育連携推進センター 主担当：絵画）

This is a report on a drawing class that I taught at Hikone Sogo High School. The goal of the class was to teach students to draw multiple motifs accurately. The class was for students who had just begun studying drawing and who had only had a little practice in it. I taught them the basics of drawing, such as drawing with a pen, paper stump, how to use the Chiaroscuro technique, and the importance of the angle of their gaze. I conclude the report by examining this method of teaching a drawing class, based on students' answers to a class survey.

1. はじめに

本稿は、筆者が彦根総合高等学校で担当した、アート・デザイン系列3年対象の「素描」の授業（以下、本授業）内容と、受講者を対象に実施したアンケートから授業内容を分析した報告である。

2. 彦根総合高等学校と本学

授業報告に入る前に、彦根総合高等学校と成安造形大学（以下、本学と記す）との関係について触れておく。2014年、彦根総合高等学校を設置する学校法人松風学園と本学は、相互の教育に係る交流と連携を通して、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、双方の教育の活性化を図る事業に取り組むべく姉妹校協定を締結した〔註1〕。その後、彦根総合高等学校の授業に本学の教員を派遣するなどの教育連携を継続して行っている。本授業は、その教育連携の一環として位置づけられる。

3. 実施校の生徒について

彦根総合高等学校は総合学科の一学科で構成され、生徒は普通科と専門学科の2種類の教育に属する科目から選択して履修することができる。1年次は必修科目の学習が中心となるが、2年次からは6系列（人文・自然系列、情報・ビジネス系列、福祉・保育系列、アート・デザイン系列・フードクリエイティブ系列・製菓コーディネート系列）に分かれ、専門的な学習を履修することができる。本授業の対象となる生徒は、アート・デザイン系列に所属している3年生の生徒13名である。アート・

デザイン系列は、素描、構成、造形、絵画、彫刻、美術史、カラーコーディネート等の選択科目を履修でき、視野を広げて現代の社会と向き合って「ものづくり」を学ぶことができる。素描は2年次、3年次に週1日50分2コマ、計100分で開講されている〔註2〕。授業内容の構築の段階で本授業対象の生徒が2年次の時に素描を担当した教員から受講者のようすについて話を聞くことができた。2年次の素描では基本的な形の取り方や明暗、立体感、質感の表現方法を理解し、1点のモチーフを描画できる程度までは進めたが、複数のモチーフを構成し描画するまでには至らなかったとのことだった。基礎的な内容はおおむね習得済みのようだったので、本授業では2年次の素描の内容の応用と捉え、基礎的な表現方法の復習、複数のモチーフを構成する際に必要な考え方の習得、3点程度のモチーフを構成し的確に描画できることを目標に設定した。

4. 授業の概要

1学期は基礎の復習として立体感、明暗の表現などの再確認を行った。具体的にはペン画による線描の方法や、擦筆による擦り込み技法を取り入れ、立体感を表現する方法について理解を深めた。明暗についてはキアロスクーロ技法を用い、光の捉え方の習得を試みた。2学期から複数のモチーフを描画する段階に入った。複数のモチーフを構成する際の構図や描画の進め方などについて確認し、描画を試みた。以下、実施した詳細な授業内容を記載していく。

5. 詳細な授業内容

ペン画の授業に入る前に線描の重要性を再確認するため、立体感と線の関係、形態の捉え方（特に楕円、円柱）、視線の角度とモチーフの見え方の復習を行わせた。

「立体感を出す線の重要性について」

モチーフの立体感を表現する際、ただ鉛筆で黒く塗るという意識ではなく、モチーフの形を理解し、面の方向に沿って描画することが重要である。その理解のために、線のみでも図形の立体感が表現できることについて触れ、立体感の表現における線の重要性を確認した。また、ストロークという比較的長い線による描画や、一定の面を平行な線で埋めるハッチング技法についての理解を深めるため、それらの表現的な効果について解説を行った（図1、図2）〔註3〕。2年次の復習的要素が強い内容だが、受講者の理解の度合いを知るためにもまずこの点からスタートさせた。

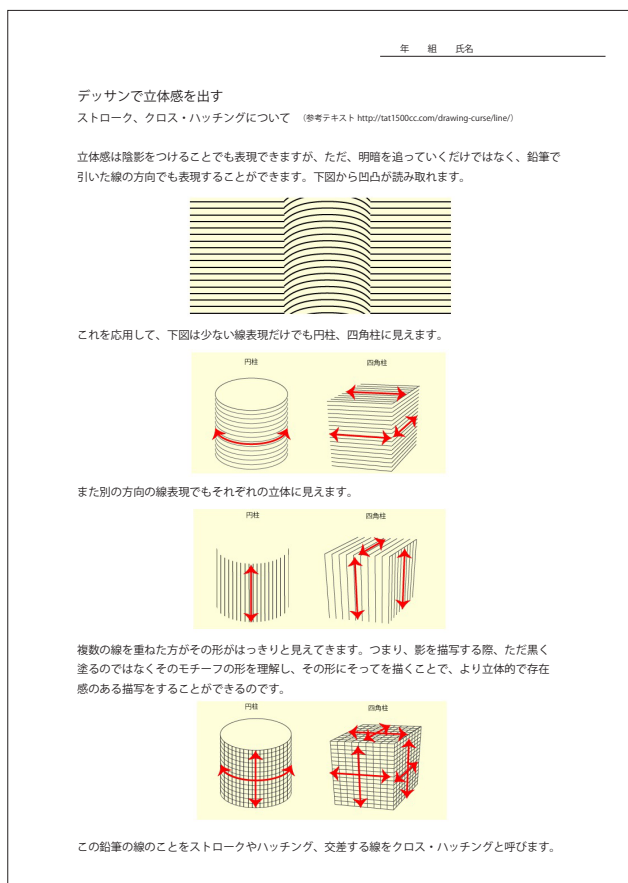


図1 配布プリント（カトウタツヤ「初心者のためのデッサン描き方講座：1500cc ドットコム」tat1500cc.com/drawing-curse/（2020年2月21日閲覧）参照）

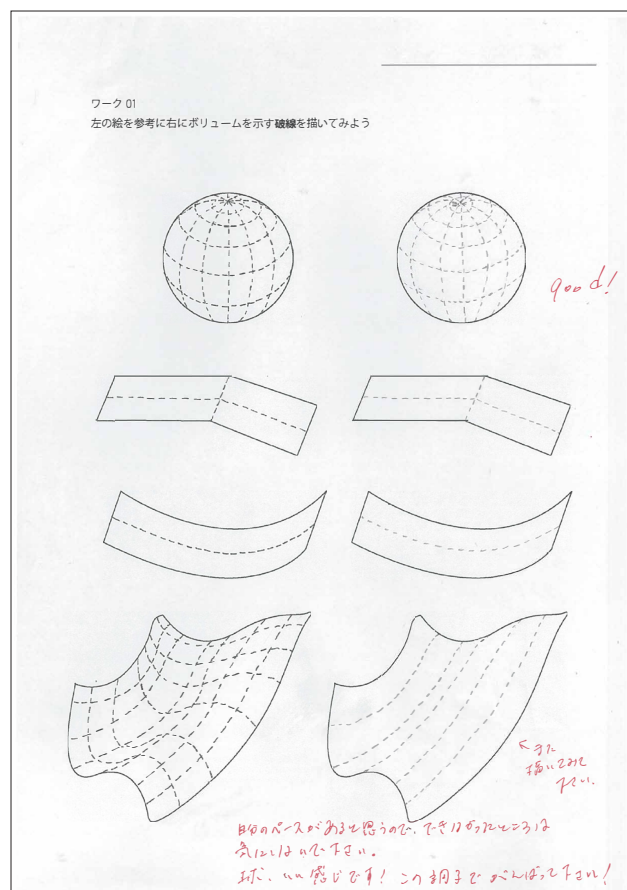


図2 受講生による描画例 撮影：筆者

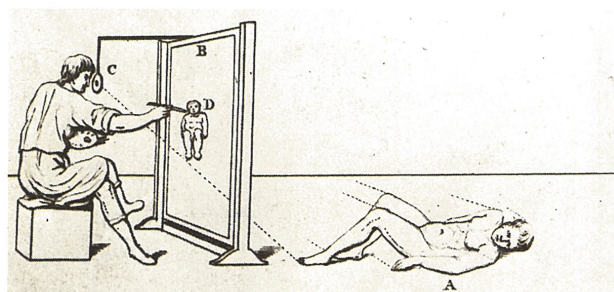


図3 19世紀フランスのエングレーヴィング(ジョン・デマーティン「古典に学ぶ人物デッサン 存在感のある肉体を描く」マール社、2019年より)

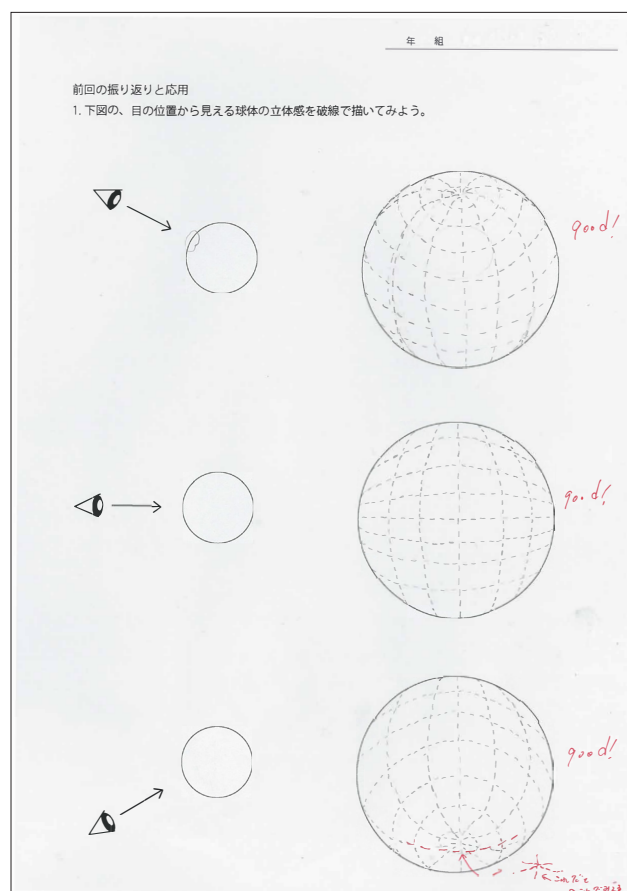


図4 受講生による描画例 撮影：筆者

「視点の場所と視線の角度について」

図3に描かれた点線はアーティストの視線の行き先を示している。透視図法で描かれた絵は、こうした視線と直立した透明な画面の交点の集合体と言うことができる〔註4〕。つまり正確な描画のためには目の位置をある一点に固定しなければならない。それは、前述した形態に沿った線を描く際もこの点と大いに関わってくる。このことについて理解するために図4のような、ある視線の角度から見えるであろう形態をイメージし、線描で面の方向を表現する練習を繰り返し行った。

「正円、円柱形の捉え方」

視線の角度がある程度理解できたところで、今度はものの形の高さによる見え方の変化、円柱における楕円の見え方の変化、遠近による見え方の変化の説明を行った。

ものの形は視点と対象との位置関係によって変化する。正円の場合、視点と対象の位置が水平に近いほど膨らみは小さい楕円に見え、水平から遠い場合は膨らみが大きい楕円に見える（図5）。

また、遠近によっても見え方は変化する。正円は視点から対象が離れていくほど視線の角度が小さくなるため、膨らみの小さな楕円になっていく。視点に近い場合は視線の角度が大きくなるため、膨らみの大きい楕円になる（図6）。

以上を解説し、正円・楕円の描画や、ある角度からモチーフを見た場合の楕円の見え方を想像して描く練習に取り組ませた（図7、図8、図9、図10）。

「ペンによるクロス・ハッチングの練習」

前述した内容の後、ペンによる描画を行った（図11、図12）。ペンを使う理由は、鉛筆と異なり消せないため一本一本の線を引くという行為にこれまで以上の集中力と抑制が要求される点である。それは受講生にデッサンにおける線の重要性をさらに知ってもらうためである。また、ペンによる線を知ることで、鉛筆で表現可能な線の多様さの理解にもつながるだろう〔註5〕。

「擦筆による擦り込み技法」

次に行ったのは擦筆による擦り込み技法である。擦筆とは紙や羊皮紙を細長く巻いて作られた円筒形の画材で、これによって紙に描かれた鉛筆の線や面を擦ることで柔らかい濃淡表情を得ることができる。線をぼかすことで線の集積よりも容易に明暗の繊細な階調を表現することができる。また、線描との差などから形態やモチーフ間の遠近を表現することも可能である。この技法を導入したのは、この工程をペン画の直後に行うことで、画材から生まれる表現の効果を体験し、描画に生かすことが目的であった。授業では図13の

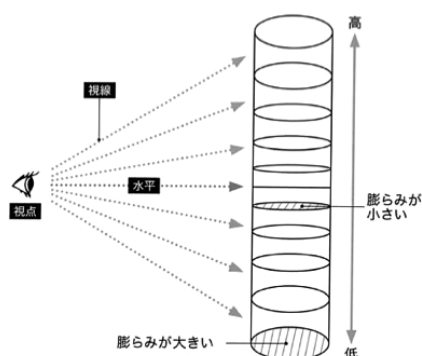


図5 高さによる見え方の変化 安原成美 監修「基礎から応用までわかるデッサンの教科書」池田書店、2016年より

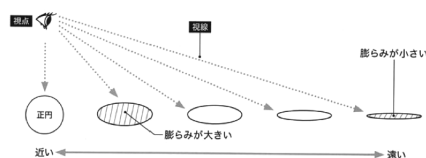


図6 遠近による見え方の変化 安原成美 監修「基礎から応用までわかるデッサンの教科書」池田書店、2016年より

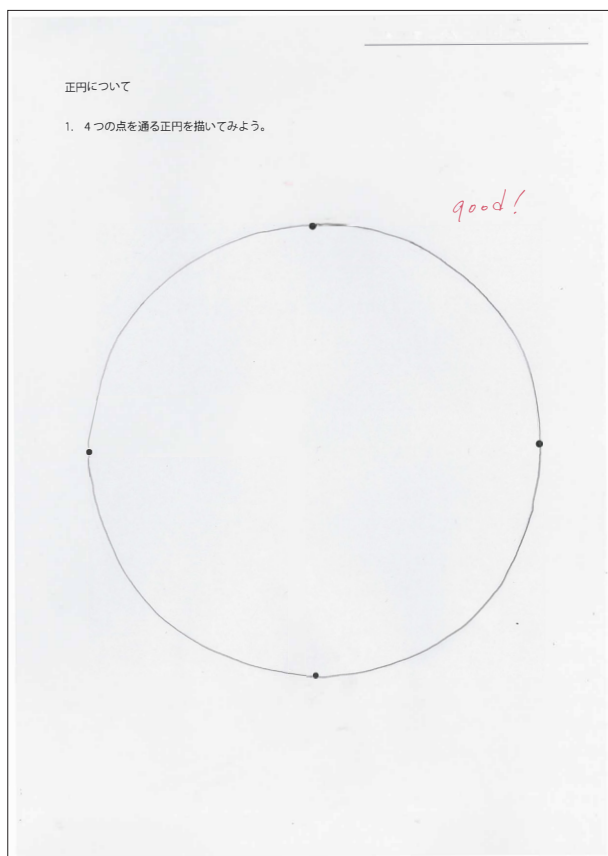


図7 「4点を通る正円」受講者の描画例 撮影：筆者

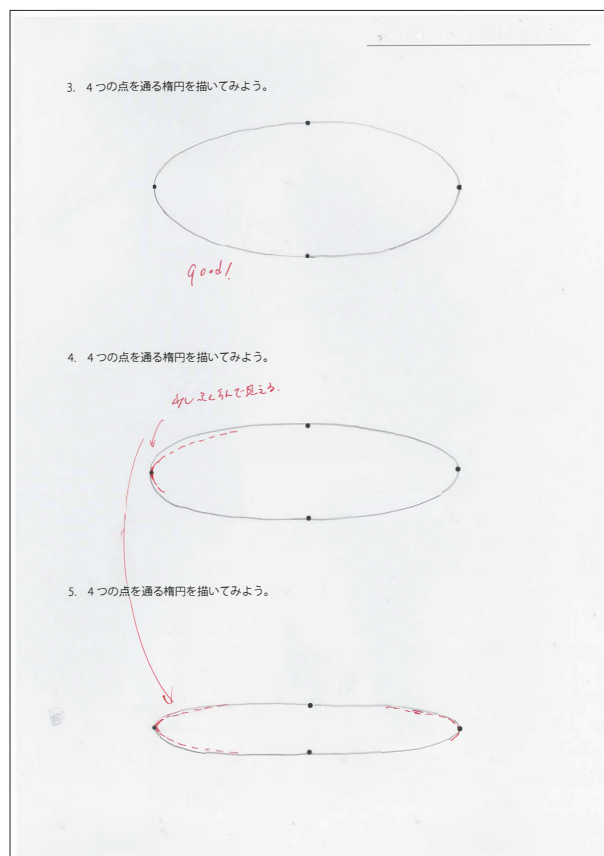


図8 「楕円を描く練習」受講者の描画例 撮影：筆者

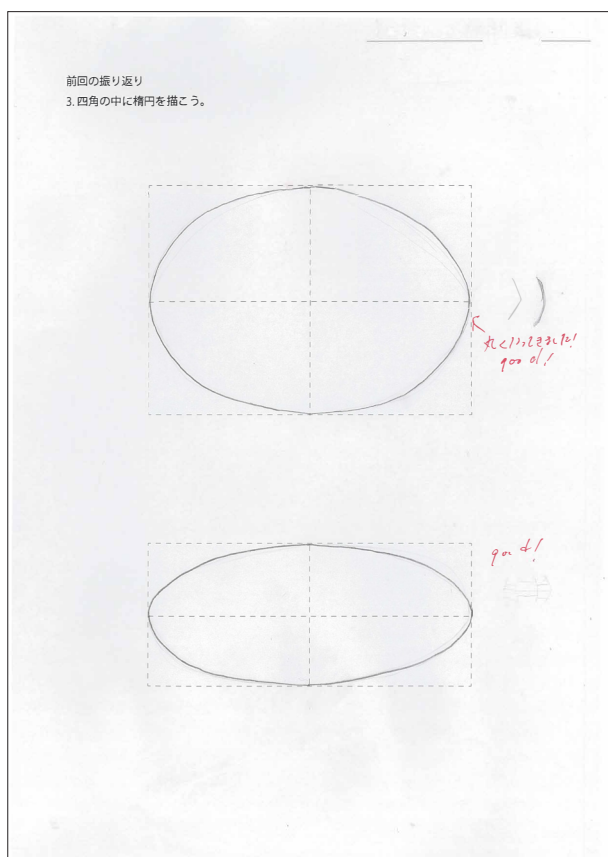


図9 「補助線を活用し左右対称に描く」受講者の描画例 撮影：筆者

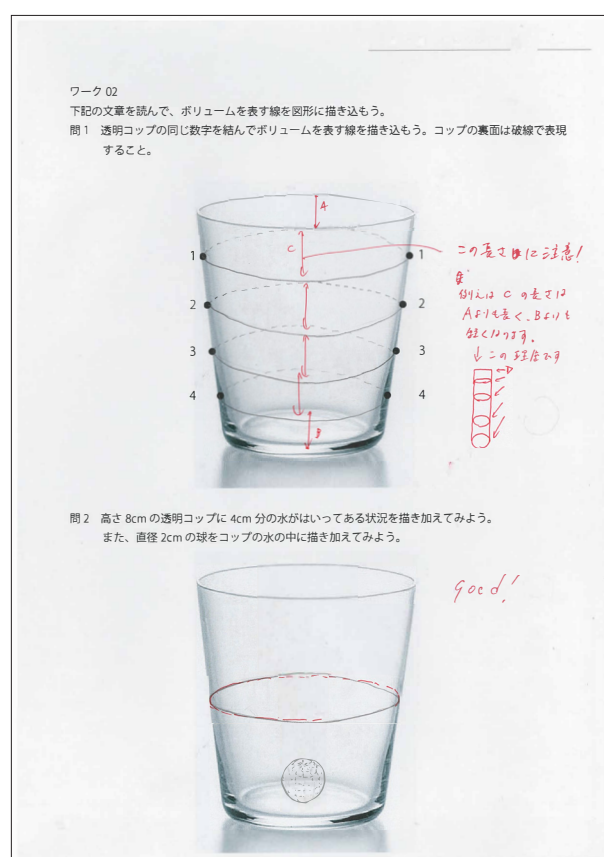


図10 「楕円の見え方を想像して描く」受講者の描画例 撮影：筆者

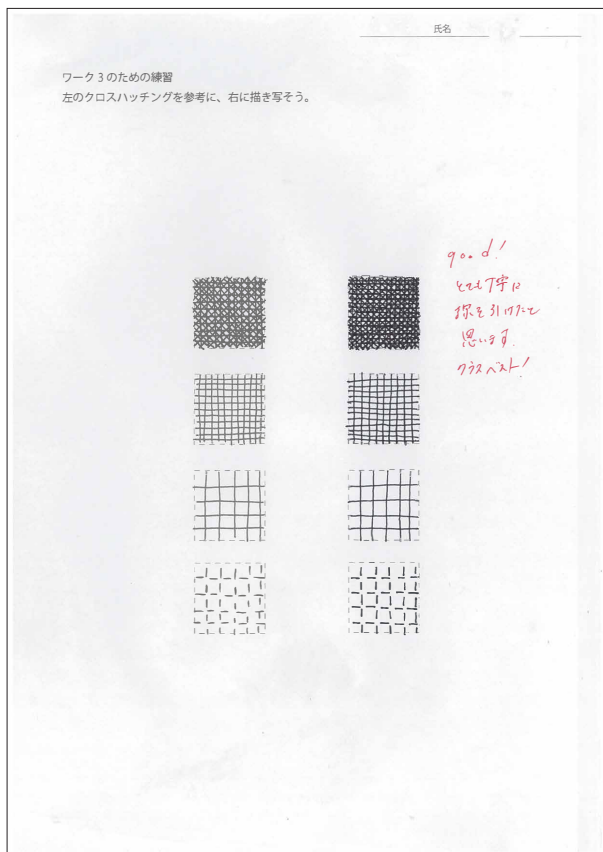


図 11 「ペンによるクロス・ハッチングの練習」受講者の描画例 撮影：筆者

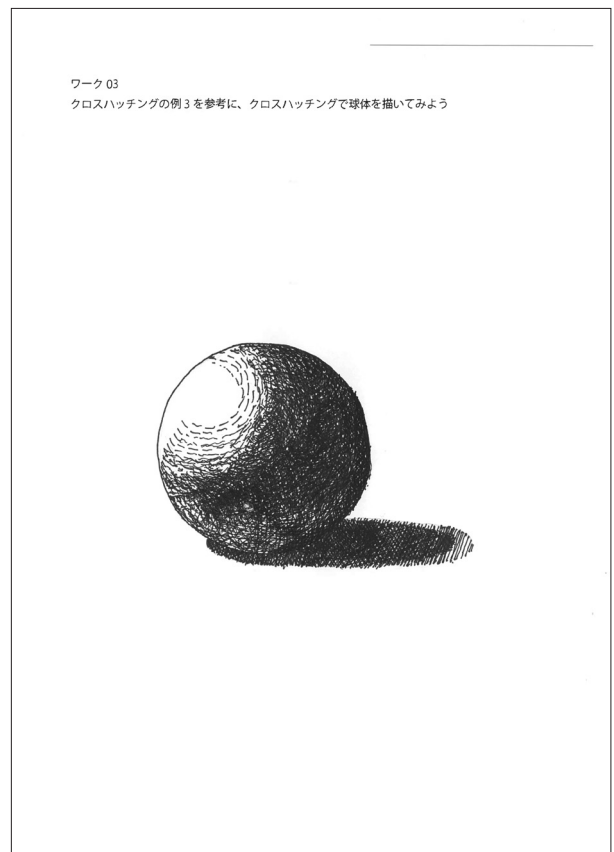


図 12 「ペンによる球体」受講者の描画例 撮影：筆者

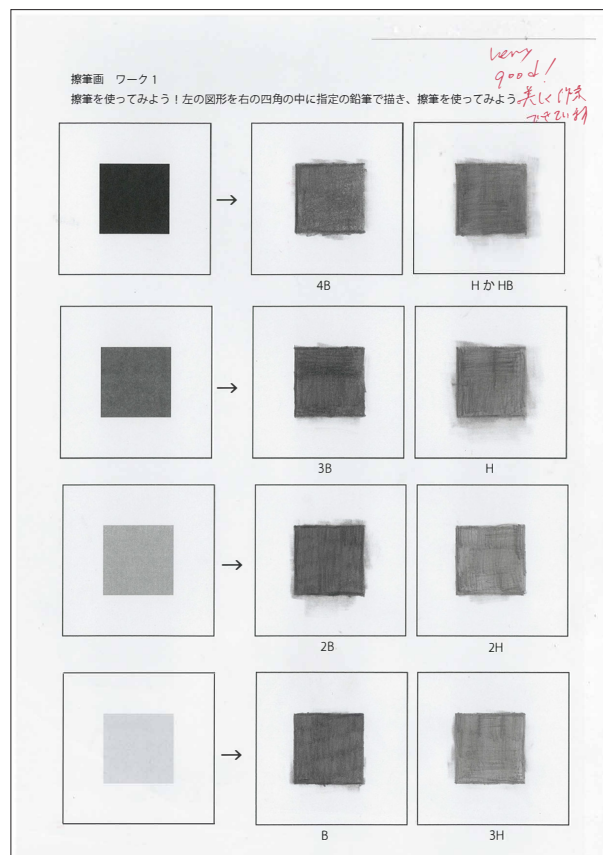


図 13 「擦筆による擦り込み技法の練習」受講者の描画例 撮影：筆者

ように擦筆を使って様々な濃度の色面作りを体験した後、球体や円筒形を描画した。円筒形のモチーフとしてトイレットペーパーを使用し、3D ペイント〔註6〕の方法で描画を試みさせた（図14、図15）。

「キアロスクーロ技法」

次はキアロスクーロ技法により、立体感を表現する練習を行った。キアロスクーロはイタリア語で「明暗」という意味で、色の着いた紙を用いて主に白色と黒色の描画材を使用して描画する技法である。明部（光）を白色、暗部（陰影）を黒色を用いることで表現方法が分かりやすく、形態の明暗、陰影を理解させるにはよい技法である。今回は白の表現にはダーマトグラフ、黒の表現には鉛筆を使用し、撮影された球体の写真を見ながら描画させた（図16）。

「複数のモチーフの描画」

ここから2、3点の複数のモチーフを描写する過程に移った。モチーフが複数になると、画面全体に視野を向けなければ魅力的な画面構成や描画にはつながらない。受講者には複数のモチーフが画面にバランスよく配置され描画されている例とそうでない例を見せ、モチーフ同士の角度や輪郭が揃いすぎないようにすること、モチーフの特徴部分を生かした並べ方にするなど等を説明し、複数のモチーフの構図を考える段階で必要な点を説明した。また、受講者の様子を見てみると、形の狂いに気が付かず描画を進める者が多かったため、補助線や比率を利用した計測法〔註7〕により、モチーフの形態を正確に捉え表現する方法を指導した。その他、複数のモ

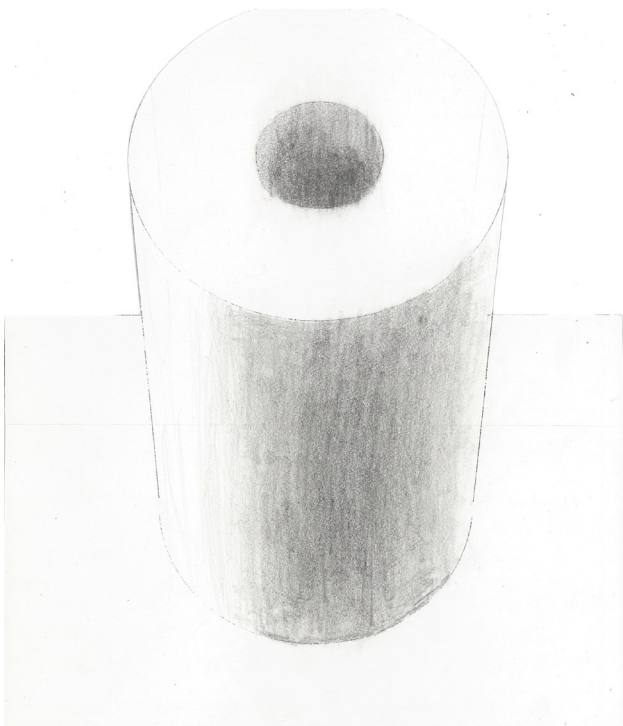


図14 受講者の描画例 撮影：筆者



図15 3D ペイントを教室に設置し撮影 撮影：筆者

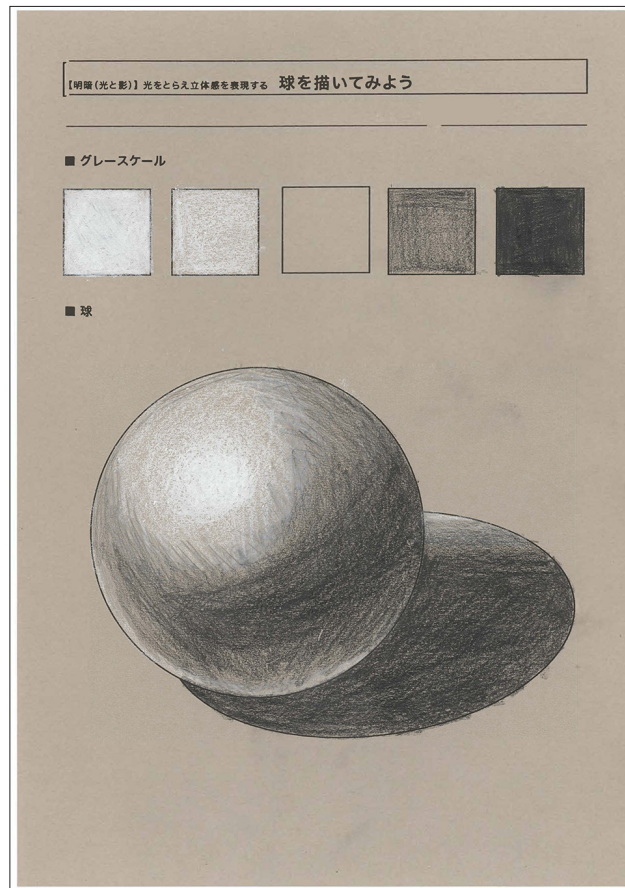


図 16 受講者の描画例 撮影：筆者

チーフの描画に必要と思われる点についてまとめたプリントを配布し、必要な時に参照してもらうようにした。また、制作時間には個々の受講者の習熟度に合わせてアドバイスをを行った。

以上が授業内容である。最終的に授業内で描画したデッサンは個人によって多少枚数が異なるが、四つ切り画用紙 7～10 枚程度である。授業時間の面からは全員が全ての内容を完全に習得できたとはいえないが、以前に比べると手がよく動くようになった受講生が多くなったと思う。また、目の前の形態をできるだけ正確に捉えようとする描画姿勢や、鉛筆の使い方、濃淡による表現性が向上したように筆者は感じた（図 17、図 18、図 19）。

6. 実践報告

ではここから授業内で実施したアンケートを基に、本授業における受講生の傾向を読み取ってみたい。なお、アンケート実施日は 2019 年 12 月 17 日（火）、対象生徒はアート・デザイン系列 3 年 11 名（13 名中 2 名欠席）、無記名制で行った。

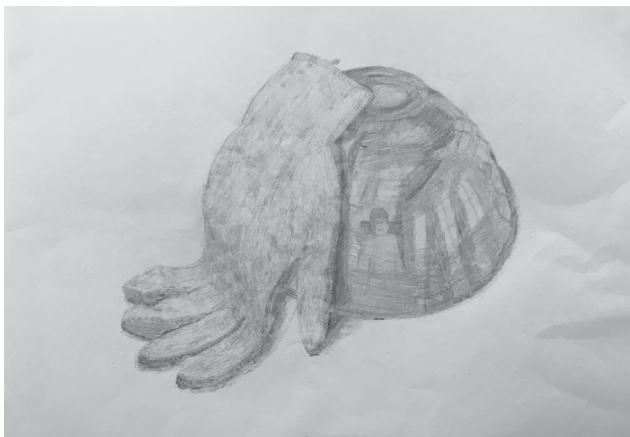


図 17 受講者によるデッサン 撮影：筆者



図 19 受講者によるデッサン 撮影：筆者

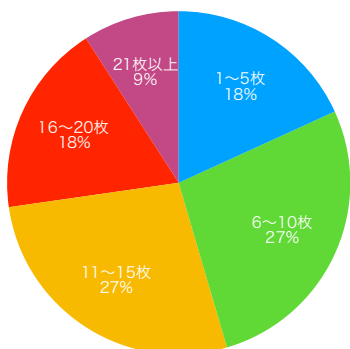


図 18 受講者によるデッサン 撮影：筆者

表 1 授業も含めてこれまでデッサンを描いた枚数は？
一番近いグループに○をして下さい。

1～5枚	2
6～10枚	3
11～15枚	3
16～20枚	2
21枚以上	1

(名)

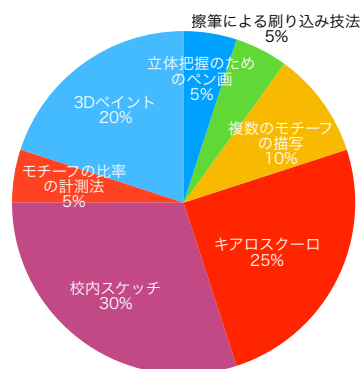


ほとんどの受講生が本授業と2年次の素描の授業時間で描いたデッサンの枚数を選択していると思われる。

表 2 この授業で印象的だった授業内容は？（複数回答可）

立体把握のためのペン画	1
擦筆による刷り込み技法	1
複数のモチーフの描写	2
キアロスクーロ	5
校内スケッチ	6
正円と楕円の見え方	0
固有色について	0
構図について	0
デッサンの進め方	0
モチーフの比率の計測法	1
モチーフの方向性、特性	0
立体感を出すストローク、クロス・ハッチング	0
3Dペイント	4

(名)



上記でも報告したように複数のモチーフのデッサンを描画するまでに様々な過程を経た。その中でも印象的だったと思われるものが「校内スケッチ」が30%、「キアロスクーロ」が25%、「3Dペイント」が20%という結果になった。実は、「校内スケッチ」も「3Dスケッチ」も授業計画当初は実施する予定はなかった。しかし、受講生から実施してほしいという声が挙がったため、使用画材を鉛筆に限定して行ったという経緯がある。

表 3 特に勉強になった授業内容とその理由を書いてください。

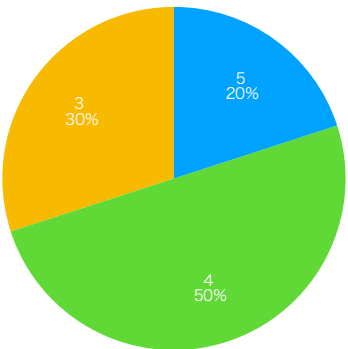
複数のモチーフを描く	複数のモチーフの描画はかなり苦手意識が強かった。わからない事が多く手が進まないため。だが、この授業で学んだことでかなり理解できた。 難しかったが頑張れた。
	自由度が高かった。
校内スケッチ	屋外での描画が新鮮だった。 自分らしく描けた。
キアロスкуро	白を描くことが、今まで頭になかったので新鮮だった。
3Dペイント	描いたものが立体的に見えて印象的だった。
その他	未来に役に立つ。

自由記述式。複数のモチーフについての感想が多かった。

表 4-1 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「ペン画を学ぶことで立体表現が更に理解できた」

5	2
4	5
3	3
2	0
1	0

(名)

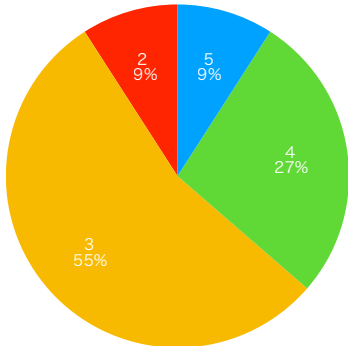


概ね全員の理解が進んだことがわかる。

表 4-2 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「擦筆を使うことで陰影表現が楽になった」

5	1
4	3
3	6
2	1
1	0

(名)

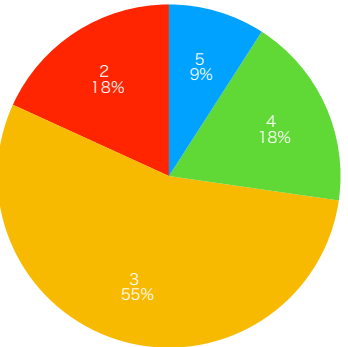


4、5 が 36%、3 が最も多く 55% だった。筆者はペンによる描画方法の差から比較的容易に感じる生徒が多いのではないかと考えていたが、結果はどちらとも言えないという結果であった。擦筆の使い方や効果について具体的事例を挙げ、丁寧に指導すれば結果は変わっていたかもしれない。

表 4-3 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「線描と擦り込みを使い分け、表現できるようになった」

5	1
4	2
3	6
2	2
1	0

(名)

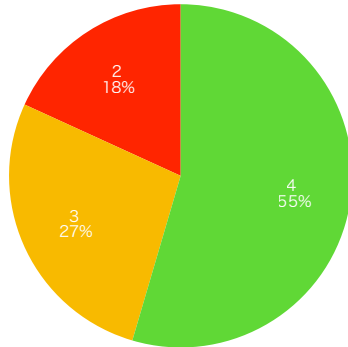


3 周辺に答えが集まった。どちらとも言えないという結果である。

表 4-4 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「モチーフ同士の比較から形を正確に描けるようになった」

5	0
4	6
3	3
2	2
1	0

(名)

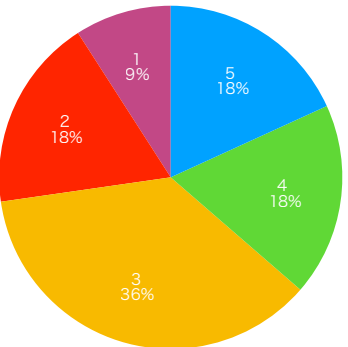


過半数が 4 を選んでおり、この部分の理解は進んだように思われる。

表 4-5 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「複数のモチーフを描写する際に、補助線の必要性が理解できた」

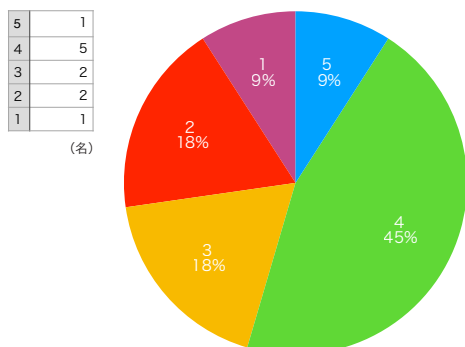
5	2
4	2
3	4
2	2
1	1

(名)



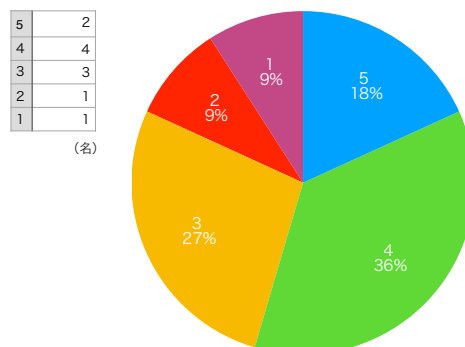
理解にばらつきが出た。しかし、3、4、5 の選択数と表 4-4 「モチーフ同士の比較」で 3 以上を選んだ受講生はほぼ同数だった。

表 4-6 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「キアロスクーロ技法によって光を描く重要性が理解できた」



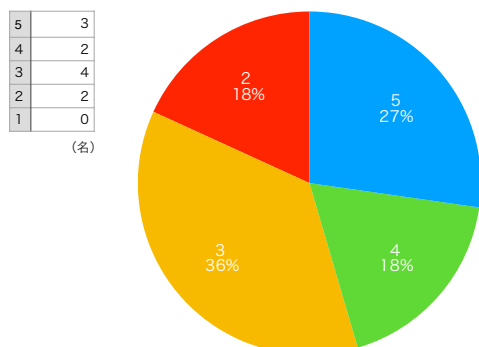
4 以上を選んだ受講生は 54% と、さほど多くはないが、1、2 の選択者も 27% と多くはない。また表 2、3 からキアロスクーロが役立ったと答えている受講生は多かったことから、効果的であったのではないと思われる。

表 4-7 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「モチーフの方向性、特性を理解してデッサンの構成に活かせた」



過半数が 4 以上を選択した。

表 4-8 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「デッサンする際、目の位置を固定し描く理由がわかった」



理解度に差が出た結果になった。授業中の受講者の描画態度を振り返っても、頭を動かさず目の位置の固定を意識している受講者は多くなかったように思う。5 でも触れたが、立体物を平面に表現する際の原理をもう少し伝える必要があるように思う。

表 4-9 授業内容について 5 段階で答えてください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「デッサンする際、計画的に描写できるようになった」

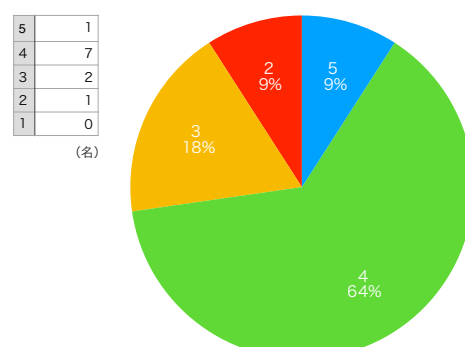


表 4-10 「デッサンする際、計画的に描写できるようになった」で 4 以上を選択した受講生が、「複数のモチーフを描写する際に、補助線の必要性が理解できた」で選択した段階

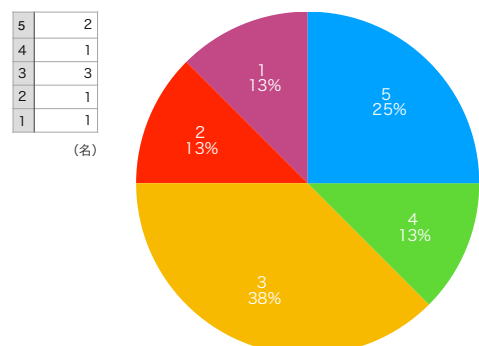
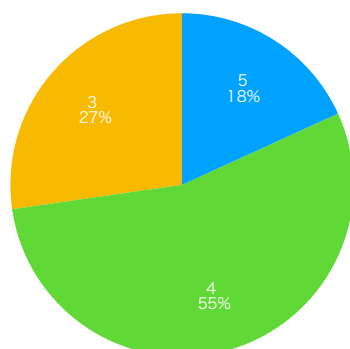


表 4-9 で 4 を選択している受講生は、表 4-4 「モチーフ同士の比較から形を正確に描けるようになった」でも 4 を選択していた。同じくこの質問で 4 以上を選択した受講生全員が表 4-7 「モチーフの方向性、特性を理解してデッサンの構成に活かせた」でも 4 以上を選択した結果になり、相互理解が進んだことが読み取れる。しかしながら、同質問に 4 以上を選択した受講生で、表 4-5 「補助線の必要性」の回答を見てみると回答にばらつきが出た (表 4-10)。筆者はデッサンを計画的に進めることの中に、描画序盤の補助線による形態の正確な把握は含まれると思っているが、この点は受講生によって理解の差があることが読み取れる。

表 5-1 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「意欲的に授業に取り組めた」

5	2
4	6
3	3
2	0
1	0

(名)

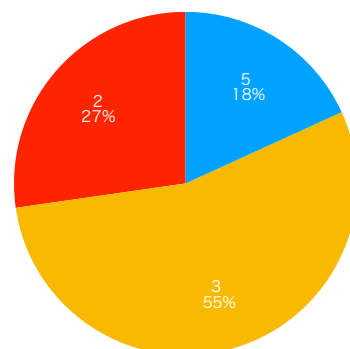


過半数以上が意欲的に取り組めたを選択。課題によっては消極的な姿勢の受講生も多少見受けられた。

表 5-2 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「自分なりに授業の前後に復習し授業に備えた」

5	2
4	0
3	6
2	3
1	0

(名)

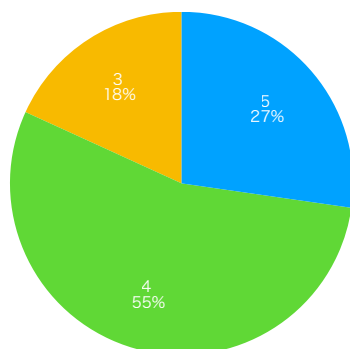


過半数の受講生がどちらとも言えないのか 3 を選択した結果になった。

表 5-3 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「1 年前よりデッサンのポイントが少し理解できるようになった」

5	3
4	6
3	2
2	0
1	0

(名)

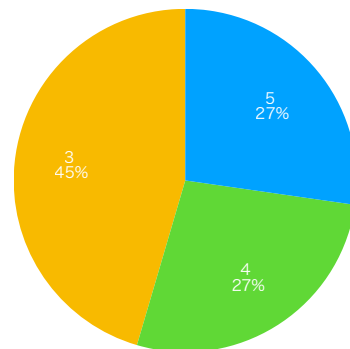


82% が 4、5 を選択した。

表 5-4 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「年間を通してデッサン（美術）が好きになった」

5	3
4	3
3	5
2	0
1	0

(名)

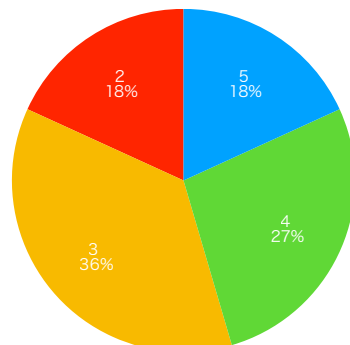


過半数が美術に対する興味が深まったと回答した。

表 5-5 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「興味が出た内容を更に自分なりに調べたり深めたりした」

5	2
4	3
3	4
2	2
1	0

(名)

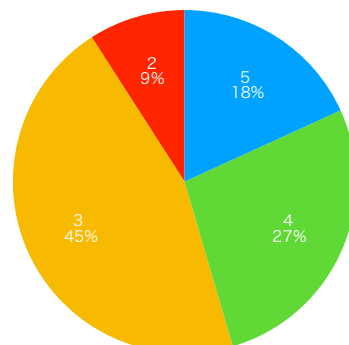


過半数には満たないが、45% の受講生が授業で興味を持った内容について授業外で能動的に動いたことがわかる。

表 5-6 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)
「作品について話すことの苦手意識が少なくなってきた」

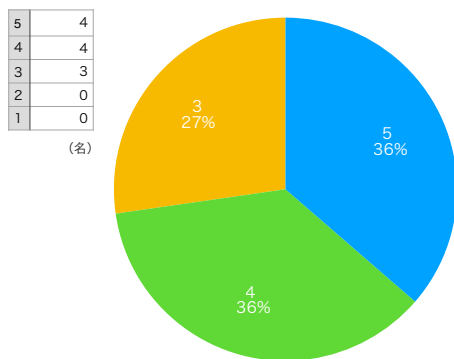
5	2
4	3
3	5
2	1
1	0

(名)



授業内は制作途中の作品へのアドバイス、授業外では高校生活の話や自主制作作品へのアドバイスなどを行った。また、授業終了前にミニツレポートで自己評価や感想を書いてもらい、振り返りを行った。しかし、完成した作品を合評する機会はほとんど持てなかったのも事実である。

表 5-7 この授業に対する自分の姿勢を 5 段階評価してください。(5 が最もそう思う、1 が最もそう思わない)「学んだことを自分の制作に活かせた」



4、5 選択者は 72% となった。授業で学んだことを自身の制作に活かせたと感じた受講生が多い。

表 6 この授業を通じて自分が最もがんばったことや感想を書いてください。

進学先に活かしていきたい。
この授業はとても学びの多い授業だった。2年生の時の素描とは違い、わかりやすく丁寧に教えてくださったのでとても学びが多かったです。
楽しかった。
初期の頃よりマシになったつもり。でもデッサンの苦手意識は変わらない。
デッサンが少し描けるようになったと思う。

本授業により、デッサンを描くことが少し楽しくなったという感想があった。しかし、苦手意識は変わらないという意見もあった。

次に表 1 でみた「これまで描画したデッサン枚数」について 10 枚未満のグループと 10 枚以上のグループに分け、「印象的だった授業」の差を見てみよう。また表 3 と照会しながらみてみよう。

表 7-1 描画したデッサン枚数が 1 ～ 5 枚、6 枚～ 10 枚までの受講者について印象的だった授業内容は？(複数回答可) 回答数：5 名

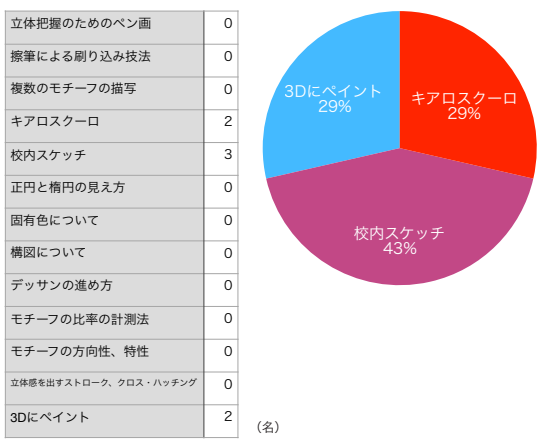


表 7-2 描画したデッサン枚数が 11 ～ 15 枚、16 枚～ 20 枚、21 枚以上の受講者について印象的だった授業内容は？(複数回答可) 回答数：6 名

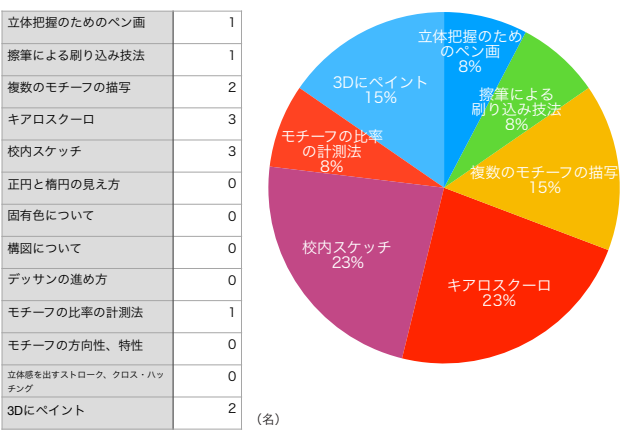
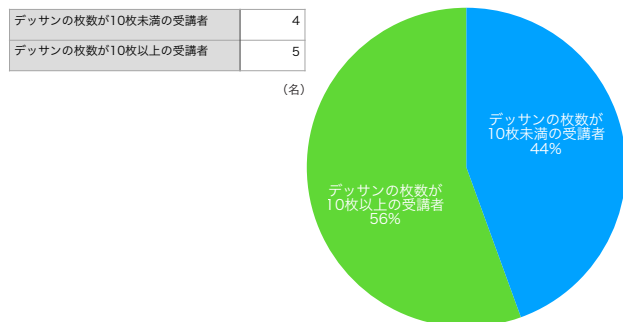


表 7-1 の 10 枚未満のグループは「校内スケッチ」、「キアロスкуро」、「3D ペイント」が多く、表 7-2 の 10 枚以上のグループは「校内スケッチ」、「キアロスкуро」が多かった。その中で「校内スケッチ」が選ばれているという点については実施校ならではの理由がある。それは表 3 の感想からも読み取れるように「校内スケッチ」がこれまで授業内の課題としては実施されておらず経験として新鮮だったことが挙げられる。一方、「キアロスкуро」についてはデッサンの経験の深浅にかかわらず印象深かったという結果が出た。こちらも表 3 で「白で描くという方法論の意外性と新鮮さが印象的だった」という結果が出た。

最後に、前述したデッサン描画枚数が 10 枚以上と 10 枚未満の 2 グループにおいて、これまでに見てきた質問の中で、4 または 5 を選択した割合を比較し、各グループの傾向を読み取ってみよう。

表 8-1 「1 年前よりデッサンのポイントが少し理解できるようになった」で 4、5 を選んだ受講者の分布



各グループとも、理解が進んだことがわかる。

表 8-2 「デッサンする際、計画的に描写できるようになった」で 4、5 を選んだ受講者の分布

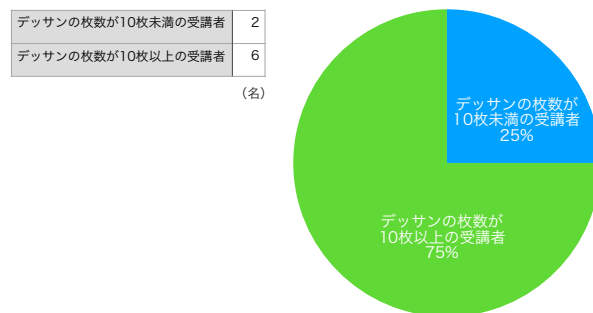


表 8-3 「学んだことを自分の制作に活かせた」で 4、5 を選んだ受講者の分布

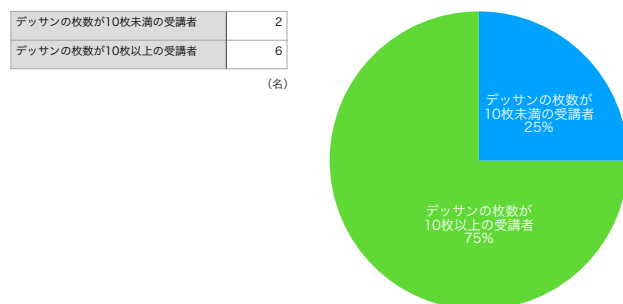


表 8-4 「モチーフ同士の比較から形を正確に描けるようになった」で 4、5 を選んだ受講者の分布

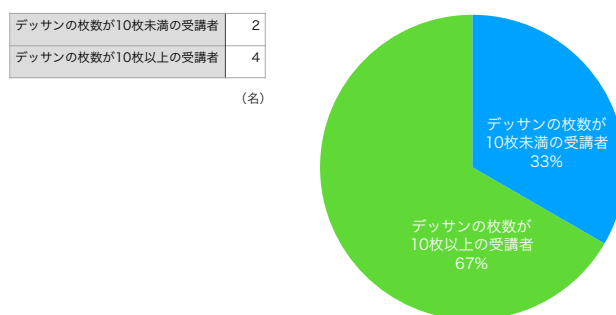
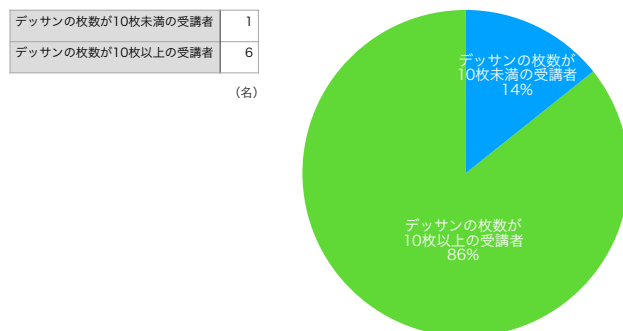


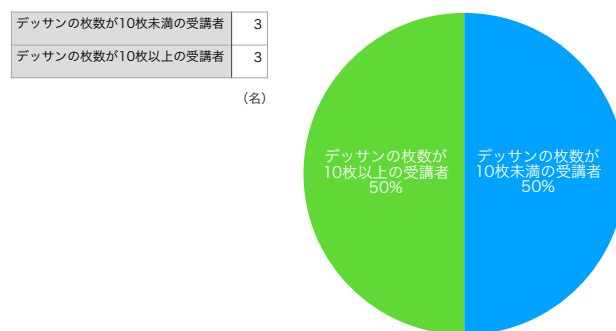
表 8-2、表 8-3、表 8-4 ともに過半数がデッサンの枚数が 10 枚以上の受講生だった。

表 8-5 「ペン画を学ぶことで立体表現が更に理解できた」で 4、5 を選んだ受講者の分布



86% がデッサンの枚数が 10 枚以上の受講生だった。このことから、ペン画に至るまでにはある程度のデッサンの経験が必要であることが読み取れる。

表 8-6 「キアロスクーロ技法によって光を描く重要性が理解できた」で 4、5 を選んだ受講者の分布



同数の回答だった。表 7-1、表 7-2 から読み取れるように、キアロスクーロがデッサンの経験の深浅にかかわらず明暗の理解に有効である可能性が読み取れる。

7. まとめ：アンケートから読み取れる今後の課題

最後にアンケートを基に本授業の成果と今後の課題を考えてみたい。前述したアンケートからもわかるように、受講者のデッサンへの理解は本授業プログラムによっておおむね深まったと思われる。毎回、悩みながらの授業構築だったが、このような結果にひとまず

ほっとしている。受講生の声を聞き、授業内容を柔軟に変更し実施できたこともデッサンを描くことが楽しくなり、理解できるようになったという感想に繋がったかもしれない。また、本授業で学んだことが自身の表現に活かせたという受講生が多かったことも、筆者にとってうれしい点のひとつであった。デッサンの理解について、これは今回のアンケート結果からは検討できないが、本授業の受講生が13名と比較的、少人数であったことも多くの受講生の理解促進につながった要因かもしれない。個別指導とまではいかないにせよ、個々の理解のスピードに合わせた指導が可能な人数配分だったように思う。だが一方で、受講生の理解度をデッサンの描画枚数別で比較すると、デッサンの経験枚数が少ない受講生より、多い受講生の方が理解が進んでいることが分かった。その点からは、本授業プログラムの内容が様々なレベルの受講者向けのものではなく、やや経験者向けになってしまっていたといえるかもしれない。様々なレベルが混在するクラスの中で、指導内容に課題が残る結果となったのは事実である。その課題改善のひとつとして注目したいのが、キアロスクーロ技法である。アンケートからキアロスクーロはデッサンの経験の差に関わらず理解関心の割合が多かったことが読み取れたからである。その理由を推測してみると、一つ目は、白色と黒色で描くということが初めての体験だったこと、二つ目は、明部(光)を白色、暗部(陰影)を黒色で描くという描画範囲の分かりやすさ、三つ目は中間色の紙に描くことにより、白い紙で描画する際の中間色(グレー)の描き込みを省略できるため、短時間である程度の完成度を得ることが可能であること、以上の点ではないかと考えている。今回の受講生に限った傾向なのかもしれないが、未体験、手軽さ、短時間などのキーワードが教材開発のヒントになりそうだと感じた。また、校内スケッチや3Dスケッチの実施での受講生の反応で見られたように、受講生が興味を持っていることや、やりたいことに耳を傾け、授業内容に取り入れることで、授業への受講姿勢に変化が表れたことも読み取れた。指導者から生徒への一方的な関係ではなく、相互的な関係を築き、柔軟な授業展開が必要であることもわかった。今後も上記の点を念頭に新たな授業構築を目指したい。

[註1] 協定による主な事業、管轄・運営を行っている本学教育連携推進センターについては、筆者の成安造形大学紀要第10号「京都つくば開成高等学校での情報デザイン基礎授業報告―表現を通して自分の見方をみつめる―」を参照。

[註2] 彦根総合高等学校 web サイト <http://www.hikosou.jp/integrated/> (2020年2月21日閲覧)

[註3] 形態に沿った線描についてはカトウタツヤ「初心者のためのデッサン描き方講座:1500cc ドットコム」tat1500cc.com/drawing-curse/ (2020年2月21日閲覧) がわかりやすく解説しているため参照した。

[註4] ジョン・デマーティン「古典に学ぶ人物デッサン 存在感のある肉体を描く」マール社、2019年

[註5] ペン画については視覚デザイン研究所編「ペン画ノート みみずく・アート

シリーズ」視覚デザイン研究所，1987 年を参照し指導を行った。

- [註 6] 3D アートとも呼ばれ、路上アートやトリックアート等に用いられる。紙に描画し不要な紙を切り取り、ある角度から見ると描かれたものが紙から浮き出ているように見えるもの。本授業ではデッサンの興味を喚起するために取り入れた。
- [註 7] モチーフ同士の比率を利用した計測法は、武蔵野美術大学「造形ファイル」<http://zokeifile.musabi.ac.jp>（2020 年 2 月 21 日閲覧）で詳しい解説を閲覧できる。また、本授業では十分に触れることができなかったが、ジュリエット・アリスティデス「ドローイングレッスン 古典に学ぶリアリズム表現法」株式会社ボーンデジタル，2012 年において「計測」や「ブロックイン」という項目でより詳細に解説されている。

参考文献

- カトウタツヤ「初心者のためのデッサン描き方講座：1500cc ドットコム」tat1500cc.com/drawing-curse/（2020 年 2 月 21 日閲覧）
- 武蔵野美術大学「造形ファイル」<http://zokeifile.musabi.ac.jp>（2020 年 2 月 21 日閲覧）
- 安原成美 監修「基礎から応用までわかるデッサンの教科書」池田書店，2016 年
- 荒木慎也「石膏デッサンの 100 年—石膏像から学ぶ美術教育史—」アートダイバー，2018 年
- 黒田正巳「透視画 歴史と科学と芸術」美術出版社，1965 年
- ジェラルド・M・アッカーマン「シャルル・バルグのドローイングコース」株式会社ボーンデジタル，2017 年
- ジョン・デマーティン「古典に学ぶ人物デッサン 存在感のある肉体を描く」マール社，2019 年
- ジュリエット・アリスティデス「ドローイングレッスン 古典に学ぶリアリズム表現法」株式会社ボーンデジタル，2012 年
- ヴィクトリア・チャールズ，クラウド・H・カール「世界の素描 1000 の偉業」二玄社，2015 年
- 視覚デザイン研究所編「ペン画ノート みみずく・アートシリーズ」視覚デザイン研究所，1987 年
- 国政一真「デッサンの基本講座—あらゆる質感のモチーフを描いて上手くなる—」誠文堂新光社，2012 年

3年素描 アンケート

「素描」授業について以下の問いに教えてください。成績には影響しませんので正直に教えてください。

1.授業も含めてこれまでデッサンを描いた枚数は？一番近いグループに○をして下さい。

1~5枚 5~10枚 10~15枚 15~20枚 20枚以上

2.この授業で印象的だった授業内容に○をしてください。

立体把握のためのペン画 擦筆による刷り込み技法 複数のモチーフの描写

キアロスクーロ（白と黒で中間色の紙に描く） 校内スケッチ 正円と楕円の見え方

固有色について 構図について デッサンの進め方について モチーフの比率の計測法

モチーフの方向性、特性について 立体感を出すストローク、クロス・ハッチング^②

3Dにトイレットペーパーを描く その他（ ）

3.特に勉強になった授業内容を2つ、その理由を書いてください

1つ目 授業名「
理由

2つ目 授業名「
理由

4.下記の質問に5段階で教えてください。(5が最もそう思う、1が最もそう思わない)

・ペン画を学ぶことで立体表現が更に理解できた 5 4 3 2 1

・擦筆を使うことで陰影表現が楽になった 5 4 3 2 1

・線描と擦り込みを使い分け、表現できるようになった

・モチーフ同士の比較から形を正確に描けるようになった

・複数のモチーフを描写する際に、補助線の必要性が理解できた	5	4	3	2	1
-------------------------------	---	---	---	---	---

・キアロスクーロ技法によって光を描く重要性が理解できた 5 4 3 2 1

・モチーフの方向性、特性を理解してデッサンの構成に活かせた	5	4	3	2	1
-------------------------------	---	---	---	---	---

・デッサンする際、目の位置を固定し描く理由がわかった 5 4 3 2 1

・デッサンする際、計画的に描写できるようになった

裏面に続く

5. この授業に対する自分の姿勢5段階評価してください。（5が最もそう思う、1が最もそう思わない）

・意欲的に授業に取り組めた	5	4	3	2	1
・自分なりに授業の前後に復習し授業に備えた	5	4	3	2	1
・1年前よりデッサンのポイントが少し理解できるようになった	5	4	3	2	1
・年間を通してデッサン（美術）が好きになった	5	4	3	2	1
・興味が出た内容を更に自分なりに調べたり深めたりした	5	4	3	2	1
・作品について話すことが前よりも気負わずにできるようになった	5	4	3	2	1
・学んだことを自分の制作に活かせた	5	4	3	2	1

6.この授業を通して自分が最もがんばったことや感想を書いてください。

以上でアンケートは終了です。

1年間ありがとうございました！

この授業での時間が今後のみなさんの基礎につながれば幸いです。藤井